

Acroporidae ミドリイシ科  
*Acropora* ミドリイシ属

***Acropora* sp. HC**  
**(Figs. 1-9)**

ナガエダクシハダミドリイシ 新称  
(図 1-9)





- 図 1. LB31. 阿嘉島マジヤノハマ. 2007-05-29.  
図 2. B186. 石垣島浦底湾, 水深 2 m. 2007-04-27.  
図 3. LB17. 阿嘉島. 2007-5-29.  
図 4-7. MIY22. 宮古島東平安名崎. 2010-8-21.  
図 8. Y159. 種子島浦田湾. 2008-2-14.  
図 9. TOK14. トカラ列島中之島. 2010-4-27.  
図の撮影は全て鈴木豪.

**形態：**群体はテーブル状。群体の中心から水平枝が長く放射状に延びて、時々融合する。水平枝から垂直に短い枝が密に分岐するが、わずかに垂直枝が長い傾向がみられる。

**識別点：**阿嘉島のマジヤノハマでは、*Acropora* sp. HD1 タイラクシハダミドリイシと同所的にみられ、垂直枝の長さが異なるように見えた。ほかの地域ではあまり差はなく、種内変異も大きい。

**分布と生態：**これまで「クシハダミドリイシ」とされたもので、沖縄地方に最も多く生息すると思われる。

**新称和名：**同じく本図鑑で新称した *A. sp. HD1* タイラクシハダミドリイシに比べ、垂直枝が長いことに由来する。和名基準標本は、LB31 (図 1) である。

**和名提唱日：**2023-11-12.

**備考：**Ladner & Palumbi (2012) は、太平洋全体の *A. hyacinthus* complex を対象とした STRUCTURE 解析 (12 か所の分子マーカ―を使用) により、A~F の6種の隠蔽種の存在を報告している。Suzuki *et al.* (2016) では、日本周辺の集団を対象に、このうちミトコンドリア非翻訳領域、核の遺伝子および非翻訳領域の合計4か所の分子マーカ―を用いて解析し、本種は Ladner & Palumbi (2012) の *A. hyacinthus* C と同じグループになることが推定された。

#### 引用文献：

Ladner J, Palumbi S (2012) Extensive sympatry, cryptic diversity and introgression throughout the geographic distribution of two coral species complexes. *Mol Ecol* 21: 2224-38.

Suzuki G, Keshavmurthy S, Hayashibara T, Wallace CC, Shirayama Y, Chen CA, Fukami H (2016) Genetic evidence of peripheral isolation and low diversity in marginal populations of the *Acropora hyacinthus* complex. *Coral Reefs* 35: 1419-1432.

**執筆者：**鈴木豪

#### Citation：

[JP] 鈴木豪 (2023) *Acropora* sp. HC ナガエダクシハダミドリイシ. In: 日本造礁サンゴ分類研究会, 日本産有藻性サンゴ類 WEB 図鑑.

Accessed at: [https://coralmonogr.jpn.org/Acropora\\_sp\\_HC.html](https://coralmonogr.jpn.org/Acropora_sp_HC.html) on 2023-11-12.

[EN] Suzuki G (2023) *Acropora* sp. HC. In: Japanese Society for Coral Taxonomy. Online Monograph of Zooxanthellate Corals of Japan.

Accessed at: [https://coralmonogr.jpn.org/Acropora\\_sp\\_HC.html](https://coralmonogr.jpn.org/Acropora_sp_HC.html) on 2023-11-12. Citation：

**更新履歴：**

2023-11-12 公開